

貧酸素水塊速報 (2020年)

【発行】 ○ 千葉県水産総合研究センター
 神奈川県水産技術センター
 千葉県農林水産技術会議
 内湾底びき網研究会連合会

【協力】 千葉県環境研究センター
 第三管区海上保安本部
 東京都環境局
 (国) 国立環境研究所

○ モニタリングポスト(海上保安庁, 国土交通省 関東地方整備局)
 (今回の速報は“○”の機関の観測データを使用して作成しました)

令和2年8月17日観測結果

貧酸素水塊は内湾北部から富津沖にかけて広く分布していました(図1)。縦断ラインでの鉛直分布では、川崎人工島北側において貧酸素水塊の厚みが10m以上あり(図2)、規模は8月上旬より縮小しています(図3)。また、赤潮が羽田沖～市原沖及び盤洲沖～君津沖で発生していました。水温は表層28～31℃、底層16～26℃です。

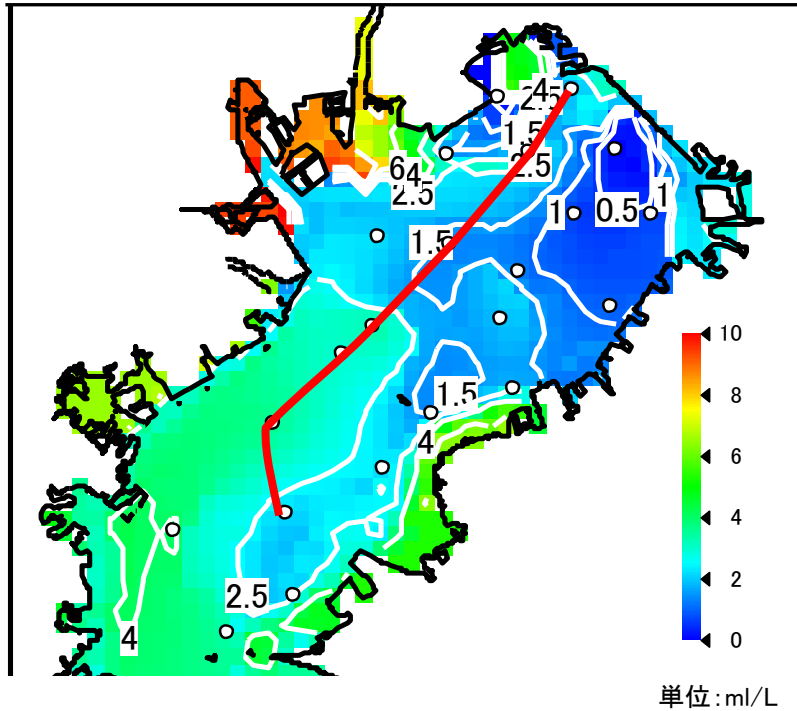


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)

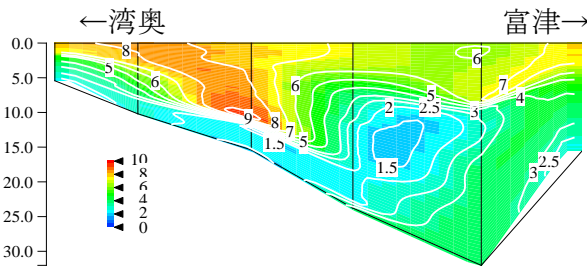


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布

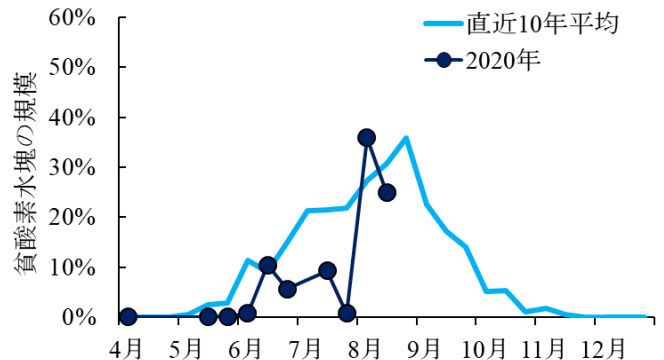


図3 貧酸素水塊の規模
(左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)